

「地域と多様性」 ～離島, 過疎地, 被災地の在宅医療～

座長 | 小野沢 滋 [北里大学病院 トータルサポートセンター センター長]

演者

泰川 恵吾

ドクターゴン診療所

長 純一

石巻市立病院開成仮診療所

陳 勁一

在宅連携相模原の会 博愛堂医院

市原 利晃

秋田往診クリニック

北澤 彰浩

小海診療所

概要

在宅医療と一口に言っても、様々な地域でそれぞれのニーズがあり異なった様相を見せています。例えば、私は鴨川市のある南房総地区で在宅医療を長年行ってきましたが、そこではたいていの方が持ち家で、一軒家に住んでいました。駐車場が問題になることはなく、患者宅に鍵が掛かっていることすらまれでした。在宅医療に取り組んでいるのは地域医療に熱心なクリニックや病院で、いわゆる施設在宅はありませんでした。高齢化率は33%でしたが、施設も多くありましたし、重病者は必ず亀田総合病院に運ばれて、夜間でも必要があれば、専門医の診察を受けられます。

一方で、現在北里大学病院の周辺では、訪問看護や訪問診療を専門にするクリニックは数多く、どこが適切な医療機関なのかを判別することすら困難な状況ですし、病院も数は多いのですが、夜間・休日など、専門医に見てもらえることはまれです。

離島であれば、病院はなく、重症になれば、ヘリや

飛行機で搬送せざるを得ないこともあるでしょう。被災地では仮設住宅で「自宅」ではない場所での在宅医療を行わざるを得ない場合も少なくないでしょう。

このように、地域の医療・介護資源、コミュニティのありよう、行政の熱心さ、など多くのファクターでその地域毎の在宅医療のありようが変わってきます。

今回のシンポジウムでは、日本各地の異なった地域環境にある5カ所の方たちにご登壇いただき、それぞれの地域特性と活動についてご報告いただこうと思います。その中から、各地に共通する事柄と、それぞれの地域特有の事柄、そして、私たちが普遍的に目ざす地点が見えてくれば良いなと思います。ご登壇いただく方たちは、離島、過疎地、被災地、人口減少都市、首都圏ベッドタウンで様々な形態で在宅医療に取り組んでいらっしゃる方たちです。本シンポジウムが皆様の明日の診療の一助になれば幸いです。